

運送事業に特化した
ホームページ作成

売上
アップ

人材
確保

信用度
アップ

株式会社システムギアソフテック
Tel.052-205-8851 <http://www.next21.co.jp>

Japan
Trucking
Association

広報 とらつく

創刊 昭和28(1953)年2月

7月15日号

発行所 公益社団法人 全日本トラック協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番5
全日本トラック協会 総務部
☎(03) 3354-1029 (総務部広報室)
<http://www.jta.or.jp>
※紙面に掲載する問い合わせは広報室まで
(会員の購読料は会費に含まれます)

News Headline

主な紙面内容

2・3

・トラック協会ニュース
・官公庁ニュース(国交省等)

4・5

＜中小運送事業者における
IT化推進特集＞
・第2回「動態管理システム」

6

あちこち
・物流彼方此方
中日本陸運(三重県)



ローリー車とドライバーを磨きあげることで
高い輸送品質を実現する中日本陸運(株)

7

・トラックステーション
(TS) 夏期休業案内

8

・平成29年度税制改正・予
算要望(要旨)
・追突事故防止セミナー開催日程

今号に掲載した記事の関連資料と
関連HPへは全ト協HP/バーナーから
アクセスできます。

▼全ト協会員専用ページのパスワード▼

7/15~8/14 4294

8/15~9/14 9222

第47回全国ドラコン優勝者らが表敬訪問

安倍晋三内閣総理大臣



安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問(写真左から、全日本トラック協会福本秀爾理事長、伊藤昭人副会長、田中章路さん(トレーラ部門優勝)、鈴木雅恵さん(女性部門優勝)、星野良三会長、安倍総理大臣、渡邊貴夫さん(11トン部門優勝・内閣総理大臣賞)、矢野修平さん(4トン部門優勝)、山崎薫常務理事(7月13日、内閣総理大臣官邸)

石井啓一国土交通大臣



石井啓一国土交通大臣を表敬訪問(写真左から、田中章路さん(トレーラ部門優勝)、鈴木雅恵さん(女性部門優勝)、石井国交大臣、渡邊貴夫さん(11トン部門優勝・内閣総理大臣賞)、矢野修平さん(4トン部門優勝)、宮崎繁昌さん(11トン部門・国土交通大臣賞)(平成28年7月13日、国土交通大臣官邸)

平成27年10月24日・25日の2日間にわたって、茨城県ひたなか市の自動車安全運転センターで開かれた第47回「全国ドラコンドライバー・コンテスト」の各部門優勝者らが7月13日、星野良三会長とともに、総理大臣官邸に安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問した。

冒頭、星野会長が代表として「内閣総理大臣賞を授けられたのは、大変光栄です。これは、日頃の交通安全の取り組みが認められたという証です。引き続き、交通安全の取り組みを徹底し、安全運転の徹底を促すとともに、全国のトラックドライバーのお手本として、安全運転の技術を知り、安全運転の文化を醸成していきたい」と激励した。

また、官邸への表敬訪問に先立ち、国土交通省に石井啓一国土交通大臣を表敬訪問した。石井国交大臣の表敬訪問では、前述した4人に加え、国土交通大臣賞を受賞した宮崎繁昌さん(中小企業所長で最高賞・11トン部門・三重県代表)も同行。石井国交大臣は「トラック輸送が我が国の経済と国民生活を支えるライフライン。それを根幹で支えているのがトラックドライバーの皆様だ。これからも誇りをもって日々の業務に従事されるとともに、全国のトラックドライバーのお手本として、安全運転の技術を知り、安全運転の文化を醸成していきたい」と激励した。

平成29年度税制改正・予算要望を決定

第217回常任理事会・第167回理事会合同会議



第217回常任理事会・第167回理事会合同会議(7月14日、第一ホテル東京)

千原 武美
副会長小林 幹愛
副会長

会議の冒頭、まず星野良三会長があいさつし、「本年の業界における最大の課題は労働時間問題と人材確保問題。諸問題の解決に向けて全力で取り組む」と語った。

副会長の選定については、ブロック協会長の交代に伴い推薦が行われ、大高一夫前副会長(前東京トラック協会会長)に代わって千原氏が、また、副会長の選定については、厚生労働省労働基準局労働条件政策課の藤枝茂課長が「トラック業界における長時間労働の抑制に向けた取り組み」をテーマに説話をを行った。

新副会長に2氏選出

千原武美氏(東京)と小林幹愛氏(茨城)

全日本トラック協会は7月14日、東京都港区新橋の第一ホテル東京で第217回常任理事会・第167回理事会合同会議を開催した。同会議では副会長の選定が行われ、千原武美氏(東京都トラック協会会長)と小林幹愛氏(茨城県トラック協会会長)が新たに副会長に就任した。

副会長に就任した。併せて、平成29年度税制改正・予算に関する要望書(案)について審議を行い承認された。全ト協では今後、各都道府県トラック協会と連携し、トラック運送業界の要望実現を目指して全力で要望活動に取り組んでいく。

若年ドライバー雇用に期待

18歳から「準中型免許」取得可能

平成29年3月12日から新免許制度スタート

改正道交法により新設された改正道交法に、18歳から「準中型免許」を取得可能となる。改正道交法により新設された改正道交法に、18歳から「準中型免許」を取得可能となる。改正道交法により新設された改正道交法に、18歳から「準中型免許」を取得可能となる。

改正道交法により新設された改正道交法に、18歳から「準中型免許」を取得可能となる。改正道交法により新設された改正道交法に、18歳から「準中型免許」を取得可能となる。改正道交法により新設された改正道交法に、18歳から「準中型免許」を取得可能となる。

輸送統計

平成28年4月分

国土交通省調べ

輸送量	前年同月比
トラック	100.4%
一般	96.0%
宅配便(千個)	106.8%

交通事故統計

平成28年5月末

警察庁調べ

事業用貨物自動車の死亡事故件数	全国の死亡事故件数	交通事故死者数(人)
普通 7 (-3)	1,502 (-63)	5/31現在 1,563 (-42)
中型 39 (-7)	113 (-23)	7/14現在 1,967 (-70)
大型 67 (-13)	113 (-23)	

コラムラインナップ

トラック運送事業者のための経営のヒント「企業経営」が「運送屋」かの徹底」／ここまで来た天然ガス自動車新時代【天然ガス自動車のコストダウンについて】…3面／食の新旧街道を行く【お菓子の道⑧長良川の夏は「やき鮎」】…7面

Pioneer パイオニアから Vehicle Assist 登場

人手不足 高齢化 事業者様のお悩み解決 お手伝いします

急なシフト変更でも OK 新人ドライバーも安心

サービスの利便性

カーナビに通信モジュールをつけて車両を管理するクラウドシステムです。PCでどこでも利用、確認できます。カーナビをつける事で運転者に優しい運行支援システムです。

① 勤怠管理 ② メッセージ ③ 地点管理 ④ 登録コース ⑤ 軌跡管理 ⑥ 日報 ⑦ 集計レポート ⑧ デジタル連携 ⑨ 車両予約 ⑩ 危険警動メール

推奨車載機

オンダッシュナビ オープン価格 (取付費別) 業務用通信モジュール オープン価格 (取付費別) クラウドサービス月額利用料

資料請求、お問い合わせは <https://www3.pioneer.co.jp/car/biz/va/contact/> TEL 03-6634-9566

詳細は <http://www3.pioneer.co.jp/car/biz/va/contact/> 検索

世界の環境対応車の主流は NGV

天然ガス自動車

世界の天然ガス自動車台数の推移

天然ガス自動車は世界で約2,200万台が走行しています。海外では年間200万台強のペースで普及拡大しており、実用性や環境性能により環境対応車の主流と位置づけられています。IEA(国際エネルギー機関)では、2030年の普及予測台数を3,500万台と見込んでいます。

2015年12月、国内メーカーによる大型天然ガストラックが発表されました。

写真提供: いすゞ自動車株式会社

一般社団法人 日本ガス協会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-12 TEL: 03-3502-0215 <http://www.gas.or.jp/ngvj/>

第4回税制・交付金委員会

動態管理に必要な機器・設備

＜動態管理システムには、大きく次の3つのパターンがあります。導入目的に合わせて機器を検討する必要があります＞

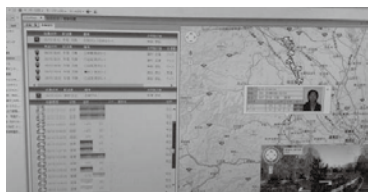
①動態管理システム単独(専用)で導入するケース

- ・**車載端末**
動態管理システム用の車載端末を車両に装備します。車載端末には、GPS 機能、携帯電話のデータ通信機能、データ保存機能などが搭載されています。
- ・**動態管理用ソフトウェア**
車載端末から送信されたデータをインターネット経由で取得し、運行管理者のパソコンに車両の運行状況を表示します。



②デジタルタコグラフやドライブレコーダのオプションとして導入するケース

- ・**車載端末**
高性能のデジタコやドラレコには、GPS 機能が搭載されていたり、オプションとして追加することができる機種があります。
- ・**動態管理用ソフトウェアオプション**
デジタコやドラレコのソフトウェアに、動態管理の機能を追加することで利用できます。



③スマートフォン、タブレットを使用するケース

- ・**スマートフォン、タブレット**
車載端末の機器を使用せずに、スマートフォンやタブレットの通信機能を使用することもできます。
- ・**スマートフォン、タブレット用アプリ**
車載端末として使用するスマートフォンやタブレット用のアプリをダウンロードしてインストールします。アプリでは、配送状態を入力したり、営業所とのメッセージのやり取りができます。
- ・**動態管理用クラウドサービス契約**
営業所側では、ソフトウェアをパソコンにインストールせず、動態管理システムをクラウドサービスとして利用します。営業所では、インターネットに接続できるパソコンを利用し、サービスの契約先に接続することで、スマートフォン、タブレットの位置や車両状況を表示することができます。



第2回『動態管理システム』

中小運送事業者におけるIT化推進特集

トラック運送業界の約9割は中小企業が占められており、その大半が厳しい経営環境に置かれている。このような厳しい環境に対応し、経営を安定させて運送事業を続けていくためには、ITを積極的に活用して経営効率を向上させていくことが必要となる。

近年、IT技術は飛躍的に進化を遂げており、経営課題の解決に向けてITを積極的に活用している運送事業者も増えてきている。一方で、「ITで

何ができるのか分からない」といった初歩のレベルでの疑問を抱えている運送事業者も決して少なくはない。そこで本特集では、2回にわたって中小運送事業者におけるIT活用策について紹介していく。

前回(7月1日号)紹介した「IT点呼」に続き、今回は「動態管理システム」を取り上げ、IT化の利点や導入時の注意点などについて、(株)近代経営システム研究所代表取締役社長の森高弘純氏に説明していただく。

運行状況を随時取得 輸送を「見える化」

ビッグデータ活用により安全性や輸送効率が格段にアップ

(株)近代経営システム研究所代表取締役 森高 弘純氏

動態管理システムとは
動態管理システムでは、営業所を出発した車両の位置や運行状況、荷物の状況などをリアルタイムに把握することが可能となる。輸送効率の向上、安全性の向上、コスト削減などの効果が期待される。また、顧客へのサービス向上にも役立つ。

① 動態管理とは

インターネット通信を活用
様々な車両情報を即座に把握

動態管理は、携帯電話やWi-Fiなどの無線通信サービスを利用して、既に実用化から20年以上経つ。事務所と車両を接続し、車両の様々な情報(車からのデータ通信も低価格で利用でき、導入例が1台、積荷の状態、車内温度、運行状況など)を管理専用機やデジタルタコグラフ、ドライブレコーダなどで取得し、安全管理、輸送品質、輸送効率の向上に活用される。安全性では、車両の位置や運行状況をリアルタイムに把握し、運行管理者が適切な指導を与えたり、配送ルート上の道路情報や注意情報を知ることができる。運転者が適切な対応をすることが可能になる。

② 動態管理活用のメリット

導入により改善が期待される
「安全性」「輸送品質」「輸送効率」

運送事業者としての動態管理活用のメリットは、「安全性」「輸送品質」「輸送効率」の3つである。

輸送品質では、予定到着時刻などを把握して、納品先に事前の情報提供を行ったり、急な集配送がある場合に、車両の位置を調べて立ち寄り可能な車両に運行指示を送ることが可能になる。また、

これまで運転者は、車両運行の全てを任されていたが、動態管理が導入されることで、運転者の行動が監視されるという意識をもつ人もいる。運転者にとっては新たなストレスになるケースもある。また、車両運行の状況

③ 動態管理導入の注意点

運転者に機能や目的を理解させ
導入効果の最大化を図る

これまで運転者は、車両運行の全てを任されていたが、動態管理が導入されることで、運転者の行動が監視されるという意識をもつ人もいる。運転者にとっては新たなストレスになるケースもある。また、車両運行の状況



UD TRUCKS

何万キロも一緒に走ってきた車両だから、大切に査定したい。

毎日ドライバーと共に、
たくさんの距離を走行してきたトラック、トレーラー。
だから、ご納得いただける価格で買取・下取りしたいと考えています。
ぜひお気軽に、UDトラックスまでお問い合わせください。
もちろん中古車の販売も、充実のラインアップをご用意しております。

どのような
お車の買取でも、
お気軽にご相談ください。

全国ネットワークを持つUDトラックスでは、
大型車から小型車までメーカー、年式にかかわらず、
買取のご相談に応じております。

お手入れの行き届いたお車、走行距離の少ないお車は
特に高く買取いたします。
もちろん買取額のお見積もりは無料です。

UDトラックスでは、常時豊富な中古車をご用意しております。
買い替えについても、いつでもご相談ください。

詳細につきましては、最寄りのUDトラックス販売会社へお問い合わせください。

動態管理システム導入までの手順

1. 導入準備

- ・導入目的を明確にする。

高度な運行管理ツール提案のため？
柔軟な配車のため？
安全運行推進のため？
運行経路を証明として残すため？
- ・目的によって、デジタコやドラレコと同時に導入するのか、単独のサービスで導入するのかを決める。
- ・目的を明確にし、メーカーなどに問い合わせることで、より自社のニーズに合った製品を見つけることができる。

2. 機器・サービスの検討

- ・目的に合わせて機器の検討を行う。
※国土交通省のホームページ「自動車総合安全情報」に認定機器の一覧があります。
- ※デジタコやドラレコのオプション機能としての導入であれば、補助金対象となることがあります。
- ・スマートフォンやタブレットを利用したサービスの場合、追加のソフトウェアを開発することもできるため、要望を明確にし、検討する。
- ・補助金も合わせて導入費用を見積もり、車載工事費なども含めて予算化する。

3. 機器・サービスの発注・導入

- ・機器・サービスの性能、費用、期待される効果、導入時期を検討し、メーカーを決定して発注する。
- ・車載器オプションは、目的に応じて選択する（ETC 車載器、運行状態通知機能、ドアセンサ、温度センサなど）。
- ・動態管理システムを活用して、社内の業務プロセスの改善を行う。特に運行管理者の活用目的、実施内容、運行管理への活用方法などを明確にする。
- ・社内の関係者に対して、導入の目的や活用方法について説明し、意見交換を行いながら、導入に協力してもらうように働きかける。

4. テスト運用から本稼動へ

- ・運転者の操作トレーニングを実施し、運行状況を正しく表示するように指導する。
- ・運行管理者は、動態管理システムで把握した運行状況について、どのような指導や対処を行うのかを明確にして、業務プロセスに組み込む。
- ・期間を決めてテスト運用を行い、運転者と運行管理者がその運用方法や効果などについて協議し、本格運用に備える。
- ・本稼動スタート。



デジタコのオプションとして動態管理機能が盛り込まれているものも

かつて、お客様にとってどのようなメリットがあるのかを適切に伝えなければ、運転者のストレスが高まってしまふ。運行管理者の操作トレーニングを実施し、運行状況を正しく表示するように指導する。運行管理者は、動態管理システムで把握した運行状況について、どのような指導や対処を行うのかを明確にして、業務プロセスに組み込む。期間を決めてテスト運用を行い、運転者と運行管理者がその運用方法や効果などについて協議し、本格運用に備える。本稼動スタート。

次にGPSを補助し、有効な情報を提供してくれるのが、VICS（道路交通情報通信システム）である。一般道路や高速道路の交通状況、駐車場案内など様々な情報を取得できる。現在、VICS-WIDEサービスの提供が始まり、よりきめの細かい情報や局地的な気象情報なども加わっている。

そして、無線情報ネットワークは、車両と事務所がリアルタイムに通信するためのサービスであり、車両側で持っている様々なデータを共有することで、高度な動態管理など、当日の交通状況に合わせて最適ルートを提供する。精密機器輸送を行っている事業者では、輸送中の車両画像をカメラで撮影し、振動計と合わせて輸送品質を顧客に示すことで、新規顧客を獲得に成功している。

化学品の小口輸送では、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

高度化を続ける4つの技術 高機能サービスがより安価に

動態管理の要素技術は、①GPS、②道路交

通情報システム、③無線情報ネットワーク、④車

両情報センサの4つであり、無線通信サービス提供会社は100社以上あり、利用形態、情報量、速度などにより様々なサービスを用意している。利用料も車載専用機を利用するタイプでは、車両1台で月額1,000円から15,000円程度、スマートフォンやタブレット、ポータブルWi-Fiなどでは、月額1,000円以下でデータ通信サービスが利用できるものがある。近年、通信速度も速くな

っており、ドラレコの動作を送れる機器もある。最後に車両情報センサである。これは、車両の状態を検知する仕組みである。基本的な機器は、G（加速度）センサ、車速センサ、エンジン回転センサなどがあり、さらに低温輸送で必要な温度センサや安全確認のためのドアセンサなどが利用されている。

今後は、車内画像、湿度センサ、重量センサ、積載量センサ、空気圧センサ、燃料計、オイル計、運転者体調センサなど様々なセンサによるデータ化が可能である。これらの4つの技術が高度化され、動態管理はさらに発展を続け、もはや車両をトラックボックス化することなく、物流設備の一点として業務に組み込むことが可能になっている。

建設資材運搬事業者では、営業所で動態管理をベースにした配車管理システムを構築した。配車画面で全車両を地図上に表示させ、車両位置を確認しながら、広域での最適配車を行っている。建設資材、建築機器など、天候や工事進捗で刻々と状況が変化するため、素早い配車対応で事業の競争力を大いに高めることができた。

これらの事例は、動態管理というIT技術によって輸送を可視化することで、安全性、輸送品質、輸送効率の向上という新しい価値を創造し、収益力の高いビジネスモデルの確立を果たしている。

取得データの標準化・共有化が高効率輸送に貢献する

IT技術の進展により、車両データもビッグデータとして活用され、特に安全性と輸送効率の向上に寄与すると考えられる。車両運行の膨大なデータは、ルートや車種、配送先、運転者といったデータ分析を行うことで、安全輸送のための傾向を表してくれるようになる。また、輸送計画や積載率データを動態管理と合

最新の動態管理の活用例 飛躍的に進化する動態管理 精度の高い車両管理が可能に

動態管理を活用した事例をいくつか紹介する。廃棄物輸送事業者では、ルートや通過時間が決まった契約をしており、クレーム発生時には、実際の運行ルート履歴やその時点の動画（後方カメラ画像）を示して、契約履行証明を行うことでクレームがなくなつた。雑貨のルート配送を行っている事業者では、GPSとVICS情報を組み合わせて、安全なルート、混雑回避ルートの選択や危険情報の通知、都市部での駐車場空き状況など、当日の交通状況に合わせて最適ルートを車両に通知して、配送時間短縮を行っている。

精密機器輸送を行っている事業者では、輸送中の車両画像をカメラで撮影し、振動計と合わせて輸送品質を顧客に示すことで、新規顧客を獲得に成功している。

化学品の小口輸送では、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

そのためには、車両特性、荷物の種類、納品先などの運行情報が標準化され、誰から見ても共通の情報として、検索、抽出できることが望まれる。

また、輸送計画や積載率データを動態管理と合わせて、輸送品目、地域、ルートなど、1社だけでなく、多くの運送会社が情報を共有することで、空車、空スペースを活かす、積載率向上に繋げることが望まれる。

平成28年度トラック運送事業者のためのIT導入支援施策を推進

安全輸送・効率化に資するシステム導入への補助

全日本トラック協会はこのほど、「平成28年度トラック運送事業者のためのIT導入支援施策」を取りまとめた。補助制度の概要は表の通り。新たにETC2.0車載器を導入した際に助成される「ETC2.0車載器購入促進助成事業」のほか、ドライブレコーダ、バックアイカメラ、アルコール検知器などの安全支援機器導入、また中小企業大学校IT関連講座の受講などソフト面へのメニューもある。全ト協では会員に対し、これらの補助を活用してIT導入を図り、物流の効率化・高度化を促している。なお、各支援施策の詳細については、各事業主体にお問い合わせを。

表

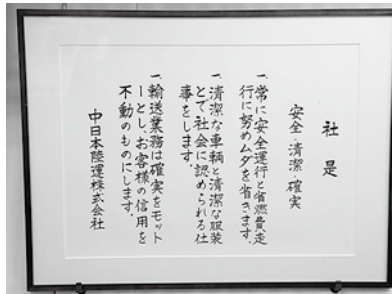
機器・システム・事業	事業主体	内容	助成額(1台当たり)	機器・システム・事業	事業主体	内容	助成額(1台当たり)
ドライブレコーダ機器等 導入促進助成事業		ドライブレコーダ普及促進を図るため、簡易型、標準型、運行管理連携型、スマートフォン活用型の4タイプの機器導入について助成	全ト協：3千円～2万円 都道府県ト協：協会による	事故防止対策 支援推進事業	国土交通省	デジタル式運行記録計（車載器、事務所用機器）導入について助成	取得経費の1／3 （上限設定あり）
安全装置等 導入促進助成事業	後方視野確認支援装置 （バックアイカメラ）	後退時の後方視野が確保できること等の条件を満たす機能を有する装置導入について助成		疲労状態測定機器		ITを活用した遠隔地における点呼機器導入について助成	
	アルコール インターロック	国土交通省の技術指針に適合する呼吸吹込み式アルコールインターロック導入について助成	全ト協：1万円 都道府県ト協：協会による	睡眠状態測定機器		運行中における運転者の疲労状態を測定する機器導入について助成	取得経費の1／2 （上限設定あり）
	アルコール検知器	IT機器を活用した遠隔地で行う点呼用携帯型アルコール検知器導入について助成（Gマーク事業所のみ）		運行管理機器		休息期間中における運転者の睡眠状態を測定する機器導入について助成	
アイドリングストップ支援機器 導入促進助成事業		アイドリングストップ支援のため、休憩、荷待ち中に相当時間連続して使用可能な車載用冷暖房機器（エアヒーター、車載バッテリー式冷房装置）導入について助成	全ト協：取得費用の1／2 （上限設定あり） 都道府県ト協：協会による	ポータルサイト	独立行政法人 情報処理推進機構 （IPA）	運行中の運行管理機器導入について助成	
中小企業大学校講座受講促進助成制度		全国9校の中小企業大学校講座（IT関係）を受講した場合に助成	全ト協：受講費用の1／3 都道府県ト協：受講費用の1／3	専門家紹介		情報セキュリティ対策推進のため、自社診断ツールや各種教材をポータルサイトに提供	無償
ETC2.0車載器購入促進助成事業		新たにETC2.0車載器を購入、導入した場合に助成	全ト協：4千円 都道府県ト協：協会による	全国キャラバン セミナー事業		情報セキュリティ対策の相談等ができる専門家を紹介	無料
事故防止対策 支援推進事業	デジタル式運行記録計	映像記録型ドライブレコーダ（車載器、事務所用機器）導入について助成	取得経費の1／3 （上限設定あり）	中小企業投資促進特別税制措置	国税庁	全国各地で情報セキュリティ対策の実践的知識を学ぶことのできるセミナーを開催	無料（交通費等を除く）
				職場意識改善助成金 （職場環境改善コース）	厚生労働省	機械・装置等導入の際、税制の特別措置を実施	特別償却、税額控除
				IT研修	商工会議所	労務管理用ソフト、機器等の導入・更新、デジタルタコグラフの導入・更新等について助成	成果目標の達成状況による （上限100万円）
						IT研修、パソコン導入サポート等の相談・支援	各実施機関による



中日本陸運(株)の駐車場には、ピカピカに磨き上げられたタンクと車両がずらりと並ぶ



整備場。各ドライバーが整備士資格をもったドライバーとチームで整備を行う



「一番大事なのは『人』です。輸送も、整備も、洗車も、『人』がやる仕事。たとえどれだけ立派な機械



今年4月に開催された第1回洗車講習の模様

「若い未経験者を積極的に採用しています。それには、『未経験者から見て安心してもらえるような会社であらう』という思いもあります。面接の場では、会社方針や社風、勤務体系や仕事内容などについて、細かくじっくりと説明して当社

「若手ドライバーたちは一生懸命洗車をしてくれていたのですが、残念ながら、残念なことには仕上がりがイマイチな部分があることに気がきました。洗ひ方の問題なのか、時間をかけて洗っている割にはムラがあり、結果が伴っていないのです。そこで、いろいろな汚れの洗い落と

企業概要
中日本陸運(株)
代表取締役社長 川北正美
本社 三重県四日市市末広町 18-3
設立 昭和38年2月
資本金 1,000万円
従業員数 41人(専属協力会社含む)
車両数 43台

「経営に携わるようになり、他社ではやっていないことをしたいという強い思いが生まれました。お客様に『中日本陸運でなければ運べない』と思ってもらえるようになるために、何をすべきかをまず考えました」(川北正美社長)

「最大のピンチを救った『車体の美しさ』」
その後も食品・液体輸送に特化して順調に事業を拡大してきた同社が苦境に直面したのは、平成

多角的な社員教育で追求する
「安全・清潔・確実」

利享取締役
車体やタンク内の洗浄は、仕事のタイミングを計りつつドライバーが自発的かつこまめに実施。高い頻度で洗車を行うということは、車両をまじまじとチェックする機会が多いということ。ネジ

「若手未経験者を積極的に採用しています。それには、『未経験者から見て安心してもらえるような会社であらう』という思いもあります。面接の場では、会社方針や社風、勤務体系や仕事内容などについて、細かくじっくりと説明して当社

「若手ドライバーたちは一生懸命洗車をしてくれていたのですが、残念ながら、残念なことには仕上がりがイマイチな部分があることに気がきました。洗ひ方の問題なのか、時間をかけて洗っている割にはムラがあり、結果が伴っていないのです。そこで、いろいろな汚れの洗い落と

「ドライバーがいきいき働ける職場環境づくり」
ドライバーに対し、仕事面のサポートだけではなく、家庭面へのサポートもしっかりと行っているのも同社の魅力の一つだ。「家族の幸せがあるからこそ仕事にもやりがいがある」という発想の下、ドライバーとその家族の幸せを追求する職場環境をつくりだしている。長距離運行で毎日帰宅することができないドライバーたちは、子どもがいてもなかなか会うことができない。そこで同社では、お宮参りや七五三、運動会や父親参観など、

「安全・清潔・確実」のDNAを受け継いでいくことで、同社を支える技術や精神は、必ずやうまく循環していくに違いない。

「乗務員の名前が車体に明記されていることにより、ドライバーは各自責任をもって車両を管理し、日々の運行を行っています。この方法をとって以来、『自分がこの車を任せてもつづけるのだ』という強い自覚が生まれ、軽微な異常・故障などの発見も非常に早くなりました」(川北社長)

「食品タンクローリー車に特化し差別化を図る」
長年にわたり、三重県トラック協会の会長を務めた先代社長・川北源三氏が、現社長であり、大卒卒業後、公務員として働いていた長男の正美氏に経営のサポートをするよう請うた結果、正美氏が中日本陸運(株)に入社したのは、昭和46年のこと。

「最大のピンチを救った『車体の美しさ』」
その後も食品・液体輸送に特化して順調に事業を拡大してきた同社が苦境に直面したのは、平成

多角的な社員教育で追求する
「安全・清潔・確実」

利享取締役
車体やタンク内の洗浄は、仕事のタイミングを計りつつドライバーが自発的かつこまめに実施。高い頻度で洗車を行うということは、車両をまじまじとチェックする機会が多いということ。ネジ

「若手未経験者を積極的に採用しています。それには、『未経験者から見て安心してもらえるような会社であらう』という思いもあります。面接の場では、会社方針や社風、勤務体系や仕事内容などについて、細かくじっくりと説明して当社

「若手ドライバーたちは一生懸命洗車をしてくれていたのですが、残念ながら、残念なことには仕上がりがイマイチな部分があることに気がきました。洗ひ方の問題なのか、時間をかけて洗っている割にはムラがあり、結果が伴っていないのです。そこで、いろいろな汚れの洗い落と

「ドライバーがいきいき働ける職場環境づくり」
ドライバーに対し、仕事面のサポートだけではなく、家庭面へのサポートもしっかりと行っているのも同社の魅力の一つだ。「家族の幸せがあるからこそ仕事にもやりがいがある」という発想の下、ドライバーとその家族の幸せを追求する職場環境をつくりだしている。長距離運行で毎日帰宅することができないドライバーたちは、子どもがいてもなかなか会うことができない。そこで同社では、お宮参りや七五三、運動会や父親参観など、

「安全・清潔・確実」のDNAを受け継いでいくことで、同社を支える技術や精神は、必ずやうまく循環していくに違いない。

「乗務員の名前が車体に明記されていることにより、ドライバーは各自責任をもって車両を管理し、日々の運行を行っています。この方法をとって以来、『自分がこの車を任せてもつづけるのだ』という強い自覚が生まれ、軽微な異常・故障などの発見も非常に早くなりました」(川北社長)



林利享取締役



川北正美社長



三重県四日市市に本社を構える中日本陸運(株)川北正美社長は、昭和48年の食品タンクローリー車の導入以来、食品・液体輸送のエキスパートとして、荷主からの厚い信頼を得続けている。同社の主な輸送品目は、液糖・液の糖類・危険物・ウレタン加工品など。東海三県を中心として、南はフエリを利用して鹿児島、北は山形県まで、広範囲にわたる輸送活動を行っている。ここでは、同社の高い輸送品質を支える、ドライバー教育をはじめとした多様な取り組みについて紹介する。

「最大のピンチを救った『車体の美しさ』」
その後も食品・液体輸送に特化して順調に事業を拡大してきた同社が苦境に直面したのは、平成

「若手未経験者を積極的に採用しています。それには、『未経験者から見て安心してもらえるような会社であらう』という思いもあります。面接の場では、会社方針や社風、勤務体系や仕事内容などについて、細かくじっくりと説明して当社

「若手ドライバーたちは一生懸命洗車をしてくれていたのですが、残念ながら、残念なことには仕上がりがイマイチな部分があることに気がきました。洗ひ方の問題なのか、時間をかけて洗っている割にはムラがあり、結果が伴っていないのです。そこで、いろいろな汚れの洗い落と

「ドライバーがいきいき働ける職場環境づくり」
ドライバーに対し、仕事面のサポートだけではなく、家庭面へのサポートもしっかりと行っているのも同社の魅力の一つだ。「家族の幸せがあるからこそ仕事にもやりがいがある」という発想の下、ドライバーとその家族の幸せを追求する職場環境をつくりだしている。長距離運行で毎日帰宅することができないドライバーたちは、子どもがいてもなかなか会うことができない。そこで同社では、お宮参りや七五三、運動会や父親参観など、

「安全・清潔・確実」のDNAを受け継いでいくことで、同社を支える技術や精神は、必ずやうまく循環していくに違いない。

「乗務員の名前が車体に明記されていることにより、ドライバーは各自責任をもって車両を管理し、日々の運行を行っています。この方法をとって以来、『自分がこの車を任せてもつづけるのだ』という強い自覚が生まれ、軽微な異常・故障などの発見も非常に早くなりました」(川北社長)

「最大のピンチを救った『車体の美しさ』」
その後も食品・液体輸送に特化して順調に事業を拡大してきた同社が苦境に直面したのは、平成

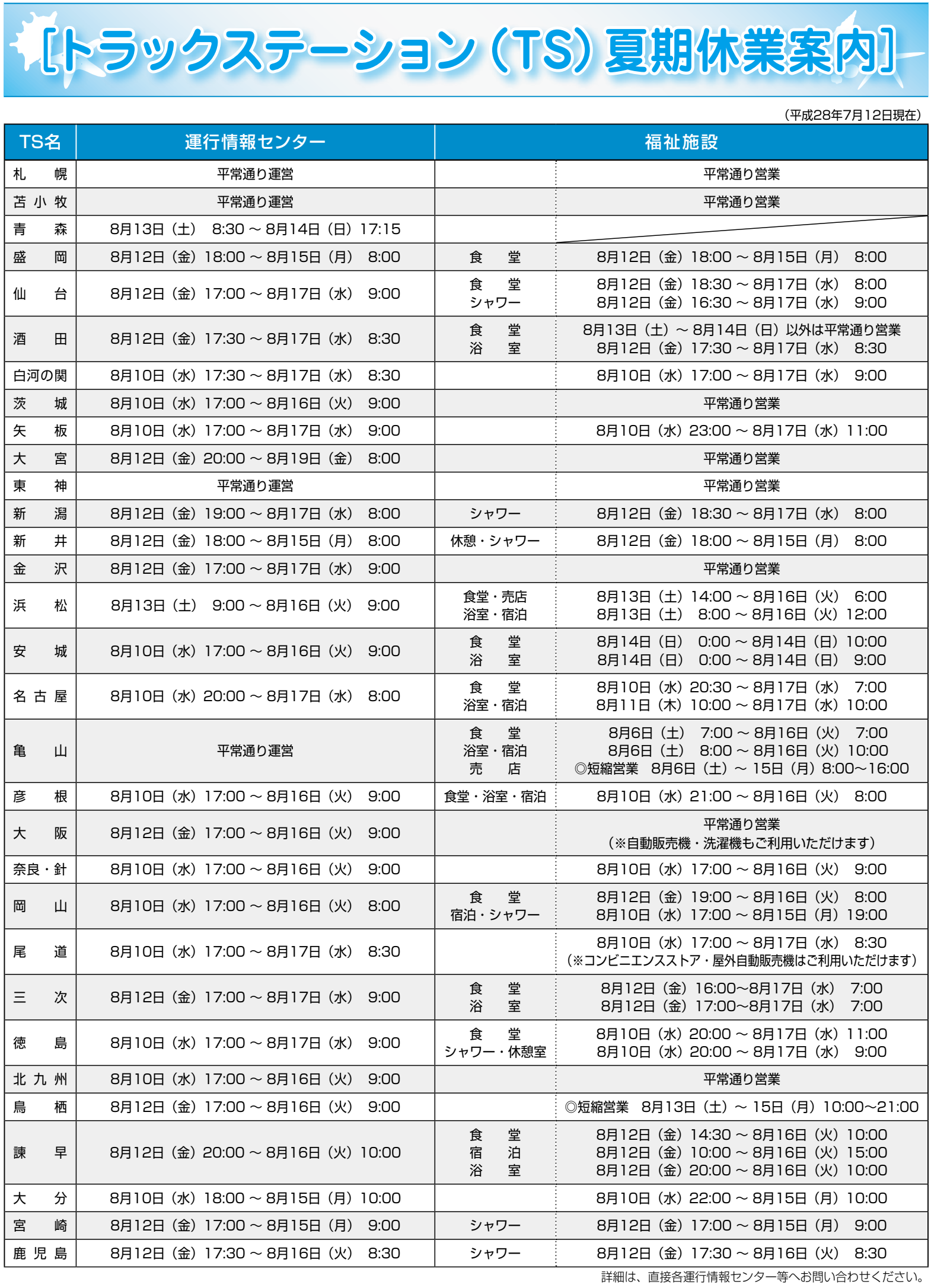
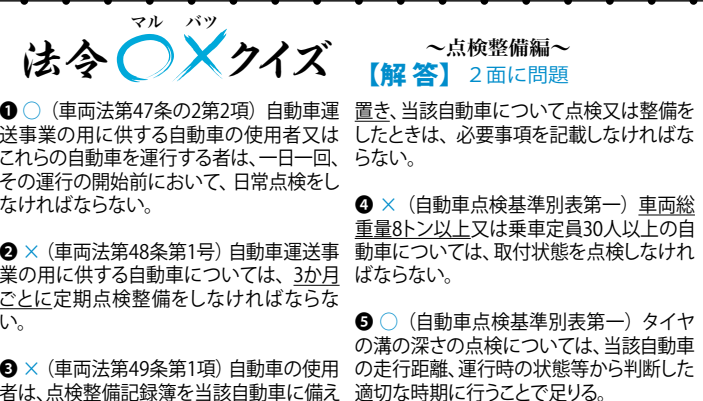
「若手未経験者を積極的に採用しています。それには、『未経験者から見て安心してもらえるような会社であらう』という思いもあります。面接の場では、会社方針や社風、勤務体系や仕事内容などについて、細かくじっくりと説明して当社

「若手ドライバーたちは一生懸命洗車をしてくれていたのですが、残念ながら、残念なことには仕上がりがイマイチな部分があることに気がきました。洗ひ方の問題なのか、時間をかけて洗っている割にはムラがあり、結果が伴っていないのです。そこで、いろいろな汚れの洗い落と

「ドライバーがいきいき働ける職場環境づくり」
ドライバーに対し、仕事面のサポートだけではなく、家庭面へのサポートもしっかりと行っているのも同社の魅力の一つだ。「家族の幸せがあるからこそ仕事にもやりがいがある」という発想の下、ドライバーとその家族の幸せを追求する職場環境をつくりだしている。長距離運行で毎日帰宅することができないドライバーたちは、子どもがいてもなかなか会うことができない。そこで同社では、お宮参りや七五三、運動会や父親参観など、

「安全・清潔・確実」のDNAを受け継いでいくことで、同社を支える技術や精神は、必ずやうまく循環していくに違いない。

「乗務員の名前が車体に明記されていることにより、ドライバーは各自責任をもって車両を管理し、日々の運行を行っています。この方法をとって以来、『自分がこの車を任せてもつづけるのだ』という強い自覚が生まれ、軽微な異常・故障などの発見も非常に早くなりました」(川北社長)



TS名	給油所	TS名	給油所
青 森	8月14日(日) 8:00～19:00	岡 山	8月13日(土) 18:00～8月16日(火) 7:00 ◎短縮営業 8月11日(木)～13日(土) 8:00～18:00
大 宮	平常通り営業	尾 道	平常通り営業
新 潟	◎短縮営業 8月13日(土)・15日(月) 7:00～19:00 8月14日(日) 8:30～17:30	三 次	8月13日(土) 20:00～8月17日(水) 7:00
金 沢	◎短縮営業 8月13日(土)、15日(月)、16日(火) 8:00～19:00 ※8月14日(日)は平常通り営業	北九州	平常通り営業
		大 分	休業中

省燃費と長時間使用を実現した冷房機



平成29年度税制改正・予算要望(要旨)

1・2面
に関連

◆税制改正関連要望項目◆

- 自動車関係諸税の簡素化・軽減の実現
 - (1) 一般財源化により課税根拠を失った軽油引取税について旧暫定税率の廃止
 - (2) 自動車税の引下げ
 - (3) 自動車税における営自格差見直し反対
 - (4) 自動車重量税の道路特定財源化
- 中小企業投資促進税制の延長及び拡充
- 法人実効税率引下げに伴う代替財源に係る中小企業への負担増反対
- 特別措置の延長
 - (1) 自動車取得税のASV(先進安全自動車)特例措置の延長
 - (2) 自動車税のグリーン化特例の延長
 - (3) 自動車重量税・自動車取得税のエコカー減税の延長
 - (4) 中小企業・協同組合等の法人税率(年800万円以下の所得部分)の延長
 - (5) 中小企業・協同組合等の貸倒引当金の特例措置の延長
 - (6) 低公害車の燃料等供給設備に係る固定資産税の課税標準の特例措置の延長
- トラック協会が運営する地域防災・災害対策関連施設等について固定資産税の軽減措置の適用
- 予備自衛官等招集準備金制度(仮称)の創設

◆予算関連要望項目◆

- 高速道路料金の変更に伴う引下げ
 - (1) 大口・多頻度割引最大50%の恒久化
 - (2) 長距離通減制の割引区分及び割引率の拡大
 - (3) 営業車用料金体系の創設
 - (4) 深夜割引の拡充
 - (5) コーポレートカード利用の平日朝夕割引における大口・多頻度割引への適用
 - (6) 本四高速における割引の拡充
 - (7) 阪神高速における大口・多頻度割引の継続・拡充等
 - (8) 北海道の道路事情を勘案した料金の設定
- ETC2.0によるサービス及び料金割引等の拡充
- 高速道路のSA・PA、道の駅における駐車スペースの活用及び整備・拡充
- 環境対策及び省エネ対策のための補助
 - (1) 石油石炭税に係る「地球温暖化対策のための課税の特例」に係る補助の継続
 - (2) 天然ガストラックの普及に係る補助
 - ① 天然ガス供給施設の設置に対する補助の創設
 - ② 天然ガストラックに対する補助の継続
- 交通安全対策のための補助
 - (1) ASV(先進安全自動車)関連機器の導入に対する補助の拡充
 - (2) 運行記録計、ドライブレコーダ等運行管理支援機器の導入に対する補助の継続及び増額
- 長時間労働抑制のための諸対策に係る補助・助成の拡充
- 北海道～本州間のフェリー等利用に対する補助・助成の創設

全ト協

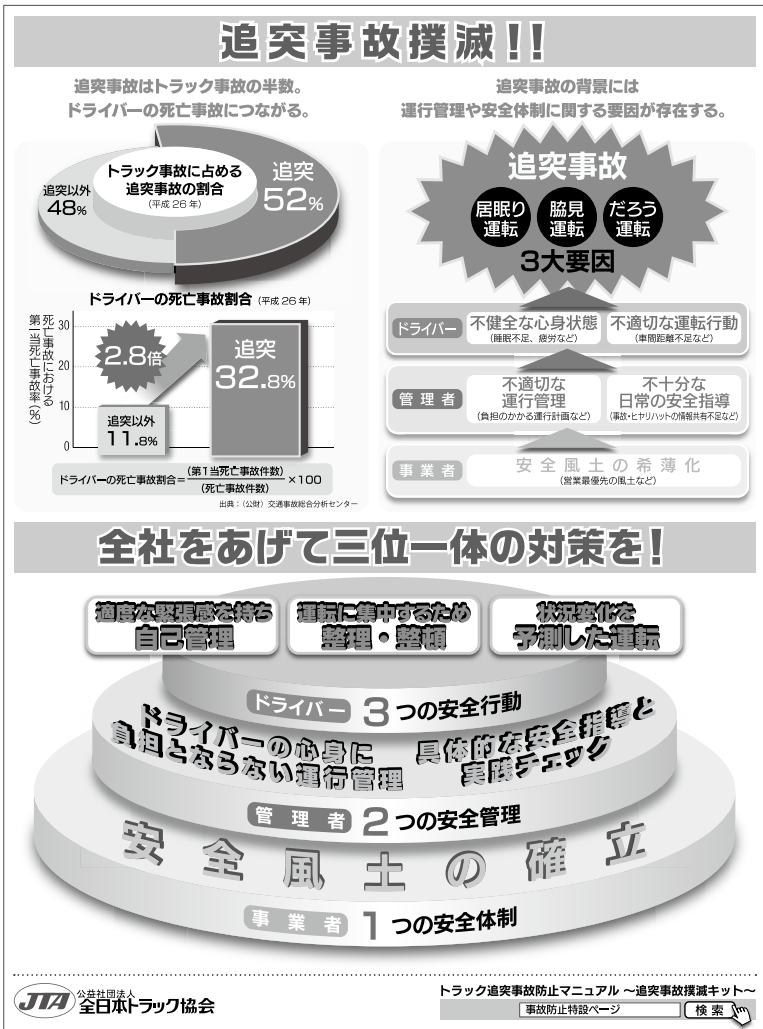
追突事故防止セミナー

全国で順次開催中

今号にポスター

全日本トラック協会では、平成28年度の安全対策として、追突事故防止に関する取り組みを強化している。現在、全ト協ホームページ内の「事故防止特設ページ」には、「トラック追突事故防止マニュアル」が掲載されており、同マニュアルを活用したセミナーを全国で順次開催している(今後の開催日程については表の通り)。

また、今号から4号連続で、事業所等へ貼り出してドライバーへ啓発するための実践ツール「トランク追突事故防止マニュアル」を刷り込み、対策の強化を図っていく。



平成28年度 追突事故防止マニュアル活用セミナー開催日程

都道府県	開催日	会場
長崎	7月20日(水)	長崎県トラック協会研修会館
茨城	7月27日(水)	茨城県トラック協会
高知	8月17日(水)	サンピアシリーズ
青森	8月22日(月)	青森県トラック協会研修センター
大分	8月24日(水)	大分県トラック会館
富山	8月25日(木)	富山県トラック会館
香川	8月25日(木)	ホテルパールガーデン
宮崎	9月5日(月)	宮崎県トラック協会
大阪	9月6日(火)	大阪府トラック総合会館
石川	9月7日(水)	石川県トラック会館
群馬	9月8日(木)	群馬県トラック総合会館
鹿児島	9月14日(水)	鹿児島県トラック研修センター
福井	9月27日(火)	福井県トラック総合研修会館
京都	10月5日(水)	京都自動車会館
岡山	10月18日(火)	岡山県トラック総合研修会館
新潟	10月21日(金)	新潟県トラック総合会館
鳥取①	11月7日(月)	米子コンベンションセンター
鳥取②	11月8日(火)	鳥取県トラック協会
福岡	11月8日(火)	福岡東京海上日動ビル
徳島	11月16日(水)	徳島県トラック会館
栃木	2月16日(木)	栃木県トラック協会

※詳細については、各都道府県トラック協会へお問い合わせください。

新規許可貨物自動車運送事業者数(平成28年4月末)

全日本トラック協会調査

運輸局	都道府県	平成28年4月	前年同期比
北海道	青森	15	-2
東北	岩手	3	1
	宮城	4	-2
	秋田	7	0
	山形	2	1
	福島	1	-3
	計	13	7
関東	茨城	30	4
	栃木	7	-2
	群馬	4	2
	埼玉	9	3
	千葉	14	0
	東京	19	5
	神奈川	19	4
	山梨	11	-2
	計	15	-4
北陸信越	新潟	5	-2
	長野	4	2
	富山	6	2
	石川	8	3
	計	33	0
中部	福井	15	6
	岐阜	3	2
	静岡	4	-3
	愛知	69	10
	三重	0	-1
	計	1	0
近畿	滋賀	4	-4
	京都	9	1
	大阪	2	-2
	兵庫	16	-6
	奈良	5	5
	和歌山	6	5
	計	2	-3
中国	徳島	17	9
	香川	9	-8
	愛媛	0	0
	高知	2	-4
	計	1	-4
九州	福岡	4	1
	佐賀	2	0
	長崎	1	-4
	熊本	4	1
	大分	2	0
	宮崎	4	1
	鹿児島	22	-14
	計	4	-1
※	合計	0	-4
※申請者住所が当該運輸局管轄外の都道府県	合計	317	11

注1) 一般・特種に限る。
注2) 各地方運輸局ホームページおよび都道府県トラック協会からの情報により全日本トラック協会が集計。

熊本県内の子どもたち2,000人をプールへ特別招待

青年部会が義援金による社会貢献活動

全日本トラック協会青年部会(山本明徹部会長)は、平成28年熊本地震への義援金による社会貢献活動として、8月3日に阿蘇熊本空港ホテルエミナス・レジャープール(熊本県益城町)を貸し切り、「夏だ!! みんなでプールに行こう!! ~日本はひとつ みんなを笑顔にしたくて~」を開催する。

熊本県内の子どもたちとその家族を無料招待するもので、午前の部と午後の部に分け、各1,000人の定員で合計2,000人の参加者を募集。自由遊泳以外にも、お笑い芸人等によるステージイベントの開催や飲食ブースでの食事提供、おみやげの配布等が予定されている。



2016・7・15

こちら広報室 四季折々

▼神社仏閣は、静寂に包まれ鬱蒼(うつそう)とした森の中に鎮座しているイメージがあり、夏の花火、賑やかなお祭り、アサガオやホオズキを商う市など、夜半にいささかを忘れさせる手段はほかにも、暑がはつきりと見とれた「鰐口」の根元に、お墓の最奥にある古い杉の木の根元に、白墨で自身の名前を書き、山門まで帰ってくるという肝試しをやりまし。そのお寺も今やマシシオンに開かれ、境内の位置関係が分るようになりまし。当時は、雄木林に開かれ、暗闇に一人佇むという光景は、えも言われぬ「恐怖」が空を覆いつくし、コウモリが活動し始める頃、お寺の山門に集合した面々、スルーしたいという思いが顔に透けて見える人が大半で、静かに返つたお寺に響くのは、近くの田圃から聞こえる蛙の大合唱、これ以上ないというシチュエーションを思わず苦笑いす。▼また、遠い記憶の中に閉じ込めた恐怖の数分間は、今でも思い出すと鳥肌が立ちます。現代にもミステリーゾーンが多々あります。それは、数年前に友人と訪れた九州の古戦場・田原坂。官軍と薩摩軍が激戦を繰り広げ、1万5千人超の死者を出したその地は、彷彿(さまよ)う霊魂でいっぱい、心霊スポットでした。▼地元の人でも、中には通らないと「魔門の場所、そこにくくなる」、「何故か同じ道を繰り返して通ってしまう」、「竹藪の中から大勢の視線を感じる」、など、不思議な現象に襲われるとのこと。▼今思えば、田原坂の後に、官軍と薩摩軍の両方のお墓に行つたのは大きな間違いでした。薄暗い竹藪に開かれた墓石の数々は、一様に寂寥感に切り、セメントで補強されている。そこは遺族の深い闇が見える。墓場に吹き渡る冷たい風、どうしようもなく身体が震えたのを、忘れることができません。▼当日の深夜、私の部屋で血を流した若者の姿がはつきりと見とれた。死を遂げた己の運命を誰かに訴えたかったのかも知れませんが、私を睨(にら)へに「お墓の目はおどろく、行ってはいけない場所から成仏できぬ霊を背負ってきたし、またおどろく。私が年間に数度体験する、この世の人ではない人との接点は、異次元の扉を開いた、説明のつかない出来事である意味恐怖です。▼夏に幽霊の話が語られるのは一興だとしても、地縛霊の怨念はその地に宿り、癒えることはないので、とはいえ、私は古戦場の探索が好きで、戦国時代の英雄が雄雄を決した関ヶ原や川中島などへ出向きました。その地も感慨深い思い出の場所であり、地も感じ取れる永遠の戦場です。強者どもが一頁に自ら参加しているかのように、す。い。わ。く。つ。き。の。古。戦。場。は、泰。平。の世を夢見た武將達の心が宿る。▼7月から8月と地域差はありますが、先祖を弔うお盆が近づきました。誰にでも複数の先祖の霊が身近にいて、事故がないようにいつも見守ってくれているといわれています。先祖を敬いこの恩に感謝しなければならぬことを、決して忘れてはいけません! (山崎恵)

グリーン経営認証

認証取得後8トン以上のトラックで3.8%の燃費向上、車両故障件数17.3%減少。
交通事故発生件数23.8%減など 環境改善にとどまらない効果。

日 時	場 所	主催	問合せ先
7月22日(金)	13時30分~16時30分	(公社)和歌山県トラック協会 3階 会議室 和歌山県和歌山市湊1414	近畿運輸局 エコモ財団 グリーン経営講習会係 ☎03-3221-7636
8月 8日(月)	13時30分~15時00分	高知県トラック会館 3階 会議室 高知県高知市南ノ丸5-17	四国運輸局 交通政策部 環境・物流課 ☎087-825-1173
8月22日(月)	14時00分~17時00分	(公社)長崎県トラック協会 2階 中会議室 長崎県長崎市松原町2651-3	九州運輸局 交通政策部 環境・物流課 ☎092-472-3154

9月9日(金)神戸で海事講習会を開催します。詳細が決まり次第ホームページに掲載します。

エコモ財団が講師としてご説明する講習会です。既に認証登録をされている事業者様の参加も可能です。

「出前説明会」受付中!

荷主企業や元請け物流事業者が、協力会社向けに開催する社内講習会等に当財団が出向き、説明する取組です。

「認証基準」、「取組事例」、「講習会開催予定」など 詳細は [グリーン経営 で 検 索](https://www.green-m.jp/)
グリーン経営認証専用ホームページ <https://www.green-m.jp/>

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団

〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地五番町KUビル3階
☎03-3221-7636 <http://www.ecomo.or.jp>

高機能通信型デジタコ

37,000円

・国交省認定取得予定
・リアルタイム通信
・GPS内蔵
・挙動センサー搭載

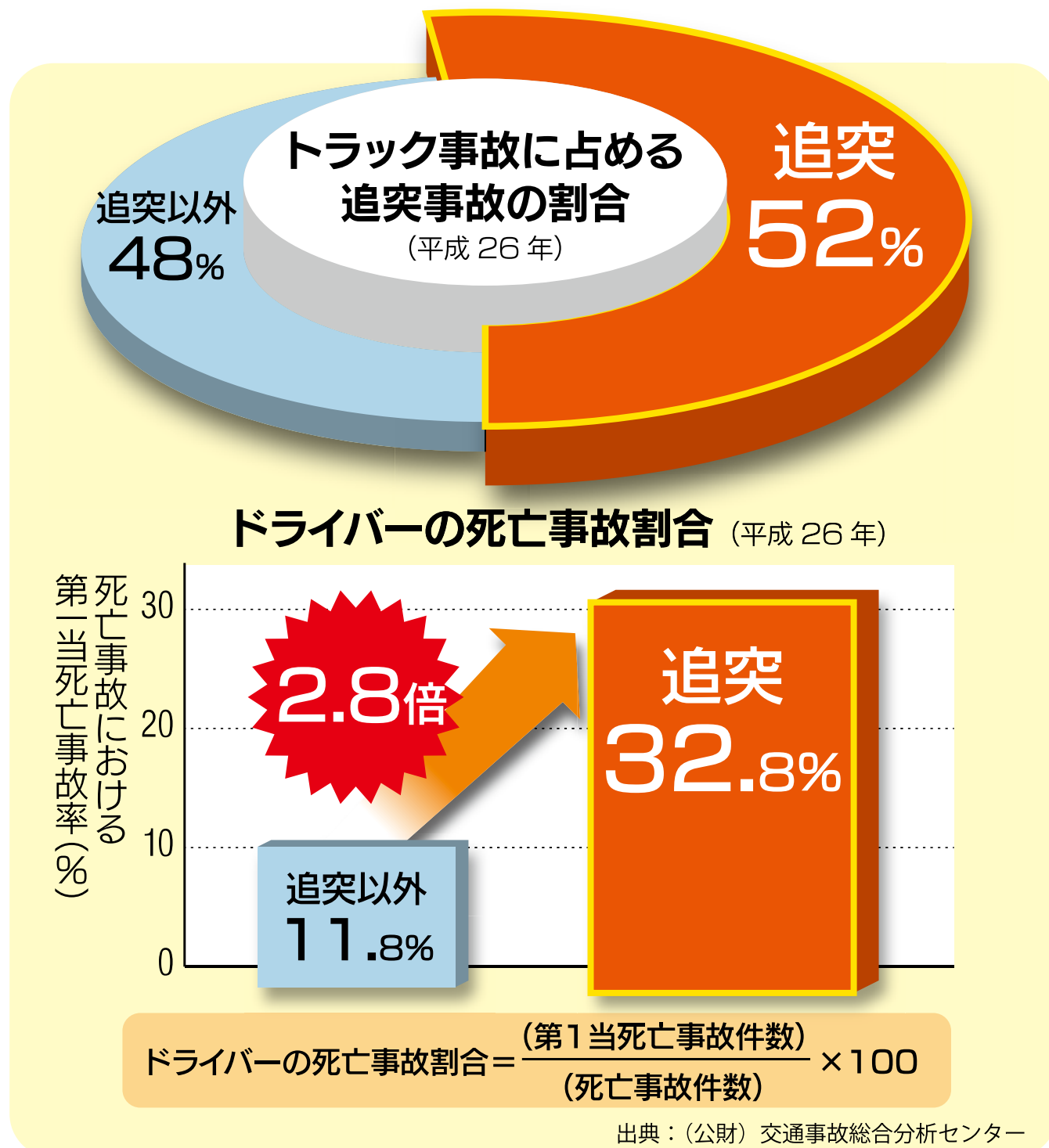
・9月下旬発売予定
・通信費+ソフト使用料
月額1,400円/1台
(価格はすべて税別)

株式会社 Hacobu(ハコブ)
ムーボ 03-6452-8838 info@movo.co.jp
※初回生産品売り切れにより、価格改定を行っております

追突事故撲滅!!

追突事故はトラック事故の半数。
ドライバーの死亡事故につながる。

追突事故の背景には
運行管理や安全体制に関する要因が存在する。



全社をあげて三位一体の対策を!

